

今年こそ 合格したい人の 勉強法②



2019年度本試験合格のために、まずやらなくてはならないことは、受験予備校やその講師から示される画一的な勉強法をただ実践することだけではなく、受験生皆さん個人個人の状況に応じた「**現状の課題の抽出**」と、その課題に対する「**分析とその分析に対する具体的な対策の実施**」を「**自らの手と頭を使って**」行うことです。今月号では、この「**分析とその分析に対する具体的な対策の実施**」について、どのような方法で行えばいいのか、「**具体的な方法**」を皆さんにご提案します。



社会保険労務士 **三宅 大樹** (山川社労士予備校)



先月号のおさらい

先月号では、主に「**現状の課題の抽出**」を、2018年度本試験について、下記の「**お礼参り**」という方法で行うことを、ご紹介させていただきました。

- (1) 本試験冊子の該当箇所に、解答速報の正答を書き入れる。
- (2) 本試験冊子の該当箇所に、自分が選択した解答を、(1)で記入した正答と区別できるように書き入れ、択一式の場合、それぞれに下した判断を記号等で明確にする。
- (3) 本試験冊子について、選択式は労基法空欄Aから、択一式は労基法問1A肢から順番に、全40空欄及び全350肢の根拠が事前に準備した**インプット型の教材**の記載にあるかどうかを確認し、ある場合には、そのインプット型教材の該当箇所に問題番号を記入する。
- (4) (3)同様に、全40空欄及び全350肢の根拠が、事前に準備した**過去問題集**の記載にあるかどうかを確認し、ある場合には、その**過去問題集**の該当箇所に問題番号を記入する。
- (5) (3)及び(4)のリスト一覧を作成する。

そして、今月号では、お礼参りで明確になった「**現状の課題**」に対する「**分析とその分析に対する具体的な対策の実施**」の方法を、具体的な例を示しながら説明していきます。

1. 自分の傾向を知る～現状の課題の分析～

お礼参りの結果、色々な課題が抽出されたことと思います。先月号にも掲載しましたが、「(3)及び(4)のリスト一覧の作成」により、以下のような課題の抽出がなされたのではないかと思います。

選択式：Aさんの例

科目	空欄	記載箇所 (過去出題)	気づいた点
労基	C	P156 H25- 4イ	過去問は何回も解いたが、「100日」というのは事例であり、「4か月以上」という原則の認識をしていなかった。

選択式：Bさんの例

科目	空欄	記載箇所 (過去出題)	気づいた点
労一	A B C	なし 未出題	試験会場で初めて見た問題。過去にも問われたことはない？ やっぱり、白書講座を申し込むべきだった？

選択式：Cさんの例

科目	空欄	記載箇所 (過去出題)	気づいた点
労一	A B C	なし H24- 4 AB	試験会場で初めて見た問題だったが、今回調べたら過去に択一式で問われたことがあった！ 悔しいなあ。

選択式：Dさんの例

科目	空欄	記載箇所 (過去出題)	気づいた点
労一	A B C	白書P64 H24- 4 AB	白書対策講座で取り上げた論点だったけど、この部分の数字の押さえができていなかった。講義もしていたのに。

択一式：Eさんの例

科目	問題	肢	記載箇所 過去出題	記号	気づいた点
労基	問3	D E	P48 過去なし	△	過去問では見たことがなかったので、あやふやだった。まさかテキストにあったとは…

ただ、これだけではまだ不十分です。これは、あくまでも2018年度本試験の結果に基づく「気づいた点」つまり「感想や反省」の表面的な部分に過ぎないからです。このレベル（課